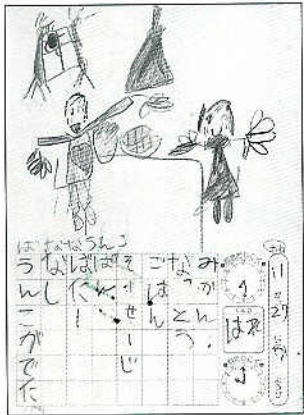




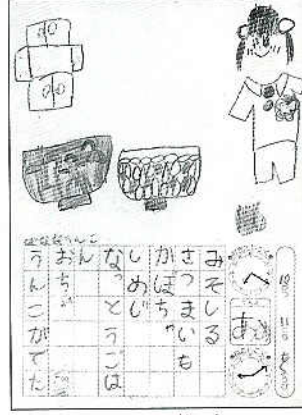
# ひかり



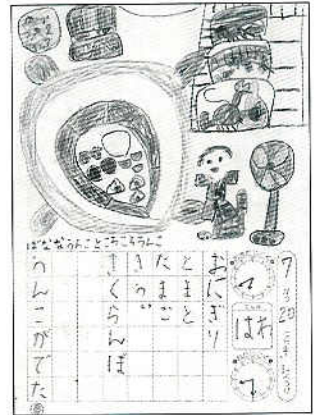
よしむら みゆ



くももととも



くぼた かれん



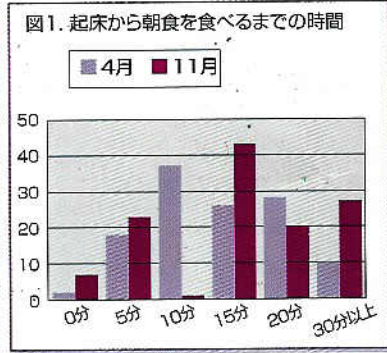
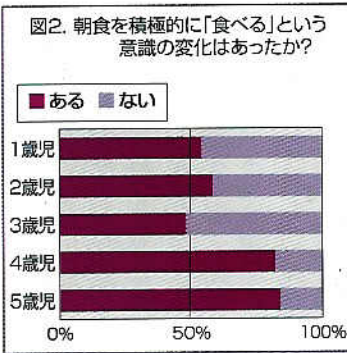
おたけい

「上の子がシール貼りを始めてから、下の子も一緒に朝食をしっかりと食べるようになった」などの

4月と11月に実施した「朝食アンケート」を比べると、11月には起床から朝食を食べるまでの時間が長くなり(図1)園児たちは朝食を積極的に食べるようになって見られました。1歳児、2歳児、3歳児では50%近く、特に毎日朝食について絵日記とシール貼りをした4歳児、5歳児では80%以上園児が朝食を積極的に食べるようになったという結果が得られました。(図2) 保護者の方からも「朝食をしつかり食べる為、早寝、早起きの習慣がついてきて

「みどりがないやんか」「以前より早く寝るようになりました」

栄養士 山本 智子



声があり、園児たちが楽しみながらバランスの良い朝食をとるようになり、それが各家庭や兄弟の間で良い影響に繋がっている事がわかりました。

このような毎日の取り組みで短期間で大きな成果が得られた事に驚いています。これからも「バランスの良い朝ごはん」をテーマに園全体の食育の取り組みを続けて行きたいと考えています。

## 地域の民話

園児による語り

主任 井本 としみ

昔話伝承の取り組みにより、昨年度から100を超える昔話をくり返し聞かせてきました。それらの保育実践を、5月に行われた第60回保育学会児童文化で発表したところ、会場から大きな反響があり、地域との関わりが大切とされる保育園にとって次に地域に伝わる民話にも目を向けてはどうかとの意見を頂きました。

そこで、藤井寺の民話・伝説集を3歳児から伝えてみることにしましたが、地域の地名や人名、それらにまつわる事物の詳述さから、理解しづらいといった状態が続き、園児への伝承は無理かと諦めかけました。しかし民話の内容に関する問答遊びをしてみたところ、園児の反応ががらりと変わり、答えられることへの自信から嬉しさが溢れ出し、そこからはあつという間に民話が園児の中へ入っていききました。民話が伝わる場所を訪れた際も、普段の散歩の様子とは全く違い、自分たちが知っているお話の所は実際どうなっているのか、大きな石や大蛇や井戸はどこに存在するのか、といった強い探求心が感じられ、民話による効果を実感しました。

クラスで覚えたお話は、保育参観で保護者の方に聞いていただき、園児が地域の民話を語ることへの驚きと、伝承の取り組みに大きな共感を得ることができました。

## みんなと一緒に 宇宙旅行をしよう

和歌山大学教育学部

准教授 富田 晃彦

ひかり保育園で「うちゅうのおはなし」をさせて頂いているのは、わけがあります。それは私がひかり保育園を好きだからです。えっ? どうです、分かりやすいでしょう。保育園には元気な園児さんが飛び回っています。また、子どもさんを見守る大人の方々がたくさんいらっしゃいます。皆さんを宇宙にご案内したいのです。といっても私は一度も宇宙に行ったことがありません。私も皆さんも、翼はありませんしお尻に口



ケットがついているわけでもありません。しかし「おはなし」と一緒に宇宙旅行をすることができません。ひと月に1回くらいお邪魔して、スライドや本を使って30分くらいお話をしています。

一緒に宇宙に行った園児さんたちからの質問はものすごく多いです。「ほしは、きれいなんですか?」

「きれいだと思う人!」

はい、はい、とたくさんの方があがります。黄色、何いろなどと、たくさん色の名も返ってきます。

「お星さまは、いつも元気だね」

「隕石はなんで熱いんですか?」

これは難題。

「落ちてきた時は熱いですよ」

「じゃ、グローブなら大丈夫?」

「グローブでつかんでも熱いよ」

「溶けるの?」

「溶けてしまうよ。でもしばらくしたら冷えるよ」

「宇宙は怖いですか?」

「ん?怖い?」

すると、怖いという返事、怖くないという返事が半々。

「宇宙はね、まず、空気がない。」

「でも星はきれいだよ」

「だから宇宙はええとこだけど、気をつけないかん」

## つながっていききたい

ももたろうを英語で聞く

ひかり保育園

園長 岡田 桂子

昨年の8月、昭和62年度の卒園生の米倉様から電話がありました。

「子どもの英語塾で桃太郎を英語で話しすることになりました。保育園の園児の前で練習させてほしいのですが」との事でした。英語の方の大学に進まれたと聞いていましたし、すぐ「どうぞ」と返事をしました。

次の土曜日、ホールで自分で作った

ん?宇宙を守らんといかん?

そうか、それは頼もしい

「ぜひ宇宙と地球を守ってくれ!」

すごいすごい。やはり変わったところ

へ行くと印象深いと同時に、色々な興味がわくものですね。ところでこの想像の旅行のものになっているものは、人間が長い間かけて積み重ねてきた自然の観察です。園児さんにも、自分の周りをじーっと見て、自分たちの環境をうーんと考えていく力をつけてもらえれば、と思っています。

最後になりましたが、楽しい時間を一緒に作って下さっているひかり保育園の全ての方々に感謝致します。

紙芝居を使って流暢な英語でももたろうを話してもらいました。

Once upon a time...

むかし、むかしあるところに...から始まりました。園児は「おにはおーじいってゆうんや」「さるといぬはわかるけど、きじはなんやっただけ」と話していました。

職員も「英語で話を聞くといい」とが久しぶりだったので、どれくらい聞きとれるかと不安でした。昔話を英語で聞く機会が減多にないと思うので、とても良い経験になりました。私も卒園生がこのように声をかけてくれてうれしかったです。

どうか卒園生の皆様、地域の方々、ひかり保育園でこのように役に立つことがありましたら、ご遠慮なくお電話してください。卒園されてからもずっとつながって行きたいです。

## 編集後記

今年は「食育」と「地域の民話」の2つに取り組んできました。食育では、早起きして、15分以上のゆとりをもって朝食を食べてくる園児が、今では75%以上になりました。民話では、保護者の方も藤井寺の歴史に関心をもって、休日には天満宮(菅原道真)、允恭陵、伴林神社に、家からも出掛けてもらえるようになりました。

日々保育する中で、情操豊かな園児の成長を願っています。

上田敏代・山本智子  
中野かおり・小池直子  
岡 加織